



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

お念仏申すの一日

「いのち毎日新しい」ときめきの一日

今年も早や半年が過ぎようとしています。「あつという間に半年過ぎたような気がしますね」。高齢者同士で会話すると、時の流れの速きことを嘆くような会話が交わされます。

「チ」ちゃんに叱られる(NHK)という番組で、「歳をとるとどうして一年が早く過ぎるようになるの?」という謎かけがありました。その答えは「ときめきがないから」という意表を突くものでした。

「ときめき」というのは、期待で胸がわくわくするような感情で、若い人たちだけの専売特許のように思っています。ですが、さにあらずです。

ご本山の慶讃法要に団参だけでなく門徒推進員の奉仕活動も含めて六回もお参りした方が、「親鸞さまが身近に感じられ、遠方の友達とも久しぶりの出合いを頂き、感動をもらいました」と喜びを語っておられます。

私も国立京都博物館の「親鸞展」や三重県立博物館の「親鸞と高田本山」展を観覧して、親鸞さまの真剣な直筆の文書に触れて深い感動を頂きました。



県立博物館の展示の中で直弟子の方々への書状(御消息)を見ている中に、亡父の実家(愛知県岡崎市)のお寺を創建した専信坊の名前が出てきた書状を発見し、それが聖人84歳の5月28日のお手紙だと知り、驚きました。それは息子・善鸞への義絶状を書く前日のお手紙にもかかわらず、丁寧で門弟に対する温かな思いやりがうかがわれ、手紙に添えられた「報謝(布施)に対する丁寧なお礼の言葉がしたためられてありました。

その直後にお参りしたお宅の月忌参りでは、高田派の「御書」と言われる御文章のようなお聖教を拝読し、それが博物館でたまたま目にした御消息と同じものであったので、余計に有難く思ったものですから、お参りのご夫婦に感動を漏らしました。すると「いつも読んでいるこの「御書」がそれほど立派なものとは思いませんでした。教えて頂き、有難うございます。私も、今ごえんさんに読んで頂いたのをもう一度心を込めて読ませてもらいます」と奥さんが笑顔でお礼申して下さいました。父

☆行事ご案内☆

7月の門信徒会 新行事長服部浩二氏、新会計館啓司氏選出

7月16日(日)朝 8時半

抹茶 de まったりサロン 三全仏婦主催、非会員歓迎 200円

6月28日(水)午後2時第1部: 抹茶のお点前で一服

指導中川宗津先生と、まったりした時間をお過ごし下さい
第2部 トライアングル来演(4回目) 大型画面と楽器伴奏
皆さんと一緒に楽しく歌いましょう

5時の鐘撞年中無休誰でもOK合掌できる子供、ご褒美あり

8月の盂蘭盆会法要(9回目) 8月15日午前8時半

納骨堂利用の方や有縁の方、ご門徒様等、お参り下さい。

秋季永代経: 近年の連続猛暑で昨年より秋季永代経を

1カ月遅れの9月23(土)24(日)午後1時半に変更しました

講師: 九條孝義先生(滋賀県、2回目)お楽しみに!

一線会テレホン法話 059-354-1454 週替わりで

6/12(月)~住職、6/19~若院、6/26~坊守、善正寺が担当

善正寺ホームページ三重善正寺で検索、過去の寺報閲覧可

毎日更新 ブログ住職と坊守のつれづれ日記大好評!

開設14年11ヶ月で40万9千訪問、お悩み相談可即返信

新納骨堂後継者の無い方お墓でお困りの方ご相談下さい

法事場所法事場所でお困りの方本堂使用可寺に相談下さい



の時代から続くこの家の月忌参りで、心ときめくような思いを抱いたのは私としても実に久しぶりのことでした。変わり映えのしないような日々の中にもみ仏さまの「我にまかせよ、必ず救う」という南無阿彌陀仏のお呼び声は一切衆生にかけられています。毎日、多くの命と皆様のお蔭により御馳走を頂いて生かされるこのいのちは、「いのち毎日新しい」ときめきを頂く一日一日なのです。

☆ 写真アラカルト ☆

ご誕生 850年・立教開宗 800年法要



団体参拝記念写真(5/21 宇治平等院)



2023.05.21 09:23



2023.05.21 09:23

坊守スケッチ

寺が第三の居場所に！



昨今の悲惨な事件を目にする度に、何故こんな不幸な事件を起こすのかと心が痛みます。経済的にも家庭的にも恵まれて何不自由なく生活しているのに、その原因はどこにあるのでしょうか？有名歌舞伎俳優一家心中事件、京都タリウム事件、長野猟銃殺人事件等、両親もいて立派な家に住み、才能にも恵まれているのに残念です。当事者にはお力ネでは買えない、自分の思い通りにならない苦悩、満たされない欲望があったのでしょうか？

近年は家族の形態も多種多様化して、核家族が縮小し、ひとり親、共働きの家庭が増えていきます。

地方都市や過疎地では、高齢世帯が増加し、独居老人と施設入居の高齢者で、空き家が増えていきます。耕作地は手入れする人がいなくて荒れ放題。野生動物の独壇場になりつつあります。

このように家族の形態が目まぐるしく変わりつつある現在、新たな居場所作りが必要となってきました。

家庭を第一の居場所、学校や職場を第二の居場所とするならば、第三の心の居場所が必要ではないでしょうか？

ひとり親家庭で育つ子供が、学校でも仲間外れにされて不登校になり、近所の駄菓子屋さんで自由に過ごせるスペースを見つけてイキイキしてきた例があります。また都会で子育てを

しながら働くシングルマザーが、子育てを支え合う「拡張家族」作り、互いに助け合いながら安心して暮らす例もあります。介護が必要な高齢者や独居老人を、「近所さんが互いに支え合う協力体制も生まれつつあります。

今、地域でも悩みを抱えた人が孤立せずに、お互いに遠慮せずに『つながり』を築いていく「第三の居場所」作りが求められています。

寺こそ第三の居場所として相応しく、名乗りを上げたいと思います。

これから地縁や寺の枠を超えて、気軽に立ち寄れる寺になりたいと思います。子供の声が聞こえる寺、何でも気軽に悩み相談でき、安心を与えられる寺に成れるように精進します。

お悔み申し上げます
★佐々木栄子様 5月16日往生
87歳、川原町 合掌

書いてご参加下さい！
※「抹茶 de まったりサロン」6月28日(水)午後2時、200円、非会員さんも大歓迎！三全仏教婦人会初企画。中川宗津先生を講師に抹茶の作法と心を学びます。第2部にトライアングルをお迎えして歌と楽器伴奏で楽しいひと時をお過ごしください。申し込み締切20日。電話申し込みも可。

若坊守の子育て日記No.102

中日新聞の「子どもってワケわからん！」というコラムで育児雑誌編集者の岡崎勝先生が、小学校の書写についての書いておられ、興味深く読みました。小学校では三年生から書写の時間に毛筆を習い始めます。筆と墨汁で字を書くなんて、殆どの子が初体験。それについて岡崎先生は、「筆と墨汁で半紙に文字を書くわけで、まさしくアナログそのもの、生身の感覚を使った身体活動です」と述べておられます。デジタル学習が進む中、キーを打てば見栄えの良い、画一的な文字を出現させることができます。筆で文字を書くことは現代っ子にとって新鮮なものかもしれません。

私はよく私の書道教室に来る子たちに「字も言葉も自分の持ち物だよ」と言います。手書きの文字も話し言葉も、とてもその人の内面を映し出していると思うからです。きつと今すぐ理解できる子は少ないですが、大人になったら分かるかなと期待しています。「失敗しても次は上手に書こう」という向上心を持つ子に会えると、私もワクワクします。そんな向上心に私自身、書道が続けるパワーを分けてもらっているのかもしれない。



カンパありがとう

Y T様、T S様、服部隆様、切手やお供物、お志等有難うございました。

俳壇・法歌

六月や誕生月を生きてをり 釋妙水
負け力士こうべと汗を落しけり
おいしいね微笑み返す新茶かな
御影堂念仏充つる清らかな 釋樂邦
林道に入れば緑の迫りけり
山鳩のくぐもる声や梅雨じめり
白牡丹嫁ぐ花嫁送り出す 釋住安
白蝶や追いつ追われつ鬼ごっこ
古民家に椿落ちたるふたつみつ
手すさびの赤鉛筆や春憂 釋普教
病む夫の脳内旅行青き踏む
風薫る非日常へと漕ぐペダル
登校の報告を書く夏の夕 釋秀龍
ポケットの切符たしかめ夏の朝
風薫るリレーバトンを渡す声
茶処と聞き味の増す新茶かな 釋清風
十葉や自由自在に生きている
梅雨晴れや山の稜線目に染みる
ご和讃を散歩の山でご夫婦は
五十首すらつと誦されて帰る 釋寿正
ご開山如来と等しと褒めたまう
垂坂山の大雨の朝

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」355号をお届けします。◇慶讃法要の期間、門徒推進員さん多数がボランティアのご奉仕。影のご報謝に感謝感激◇「気に入らぬ風もあろうに柳かな」。狭い価値観を捨て、共々無碍の一道を歩みたい。合掌。

梅雨から一気に初夏に突入です。今年も猛暑と線状降水帯が予想されます。天候は人間の力ではどうにもなりません。が、昨今のマスコミを賑わす事件には、現代日本の地獄絵を見るようで心が痛みます。5月には二つの大事件。先ず有名歌舞伎俳優の一家心中事件。「生まれ変わって出直そう」と両親と服毒自殺。浄土真宗では「俱会一処」という仏教語があります。お浄土で再び出会える世界があることを信じて先立つ人を見送る言葉です。自分だけ生き残った歌舞伎俳優が今後命を粗末にせずどんな生き方をされるのか注目したいと思います。また長野県中野市でも被害妄想の男性が散歩中の女性と警官の計4人を刃物や散弾銃で殺害した痛しい事件。犯人は士代統く由緒ある家柄に生まれ、両親も立派な肩書をもち、経済的にも恵まれた家庭に育ちながら、何の不满があったのでしょうか。京セラ創設者の稲盛和夫氏は「幸運に恵まれることも、試験。幸運に恵まれ、ラッキーな人生を歩み始めれば、とかく人間というものは謙虚さを忘れ、傲慢になってしまふ。贅沢をやるようになり、人を軽蔑して人間が変わっていく」と警告を発しておられます。家庭でない、学校や職場でもない、第三の居場所として居心地のいい寺に善正寺もなりたいと思っております。来る6月28日(水)午後2時、「抹茶焙じり古シ」皆様ののご参加を心よりお待ち申し上げます。皆様の笑顔に出会い、またりとした時を過ごさう。合掌

令和五年七月

善正寺坊守輝